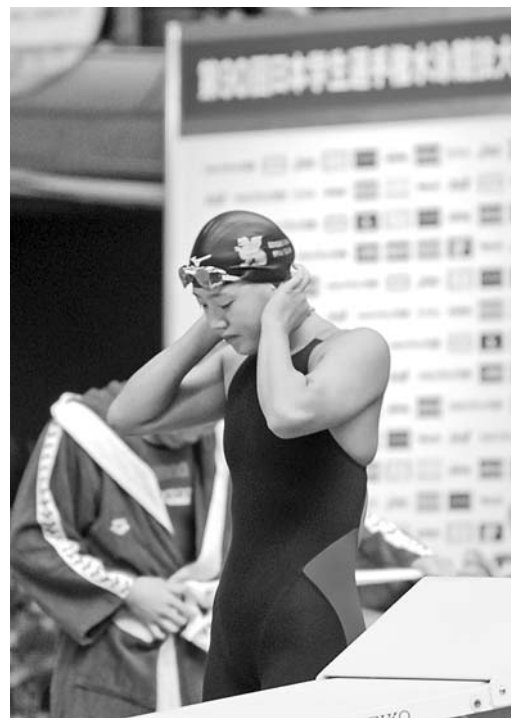
水泳・日本学生選手権競技大会（競泳）

女子200㍍平泳ぎ

服部が5位



◀奮闘した服部＝撮影・村橋

日本学生選手権水泳競技大会（9月5～7日、横浜国際プール）で、服部友香（商1・八王子学園八王子高）が女子200㍍平泳ぎで5位（2分27秒43）に入賞した。

8月の関東学生選手権で優勝し、今大会は「結果を残したい」と意気込んで臨んだ服部。「予選のタイムでは無理だと思ったが、決勝に残れて運が良かった。決勝でいい結果を残せて、ほっとした」と振り返った。初めてのインカレについて「どの大学も盛り上がりがすごかった。専大のみんなの応援はとてもうれしかった」と話した。

服部は日本選手権（25m）水泳競技大会（10月27～29日、東京辰巳国際水泳場）に出場する。「自己ベストの更新と決勝進出を目指したい」と語った。

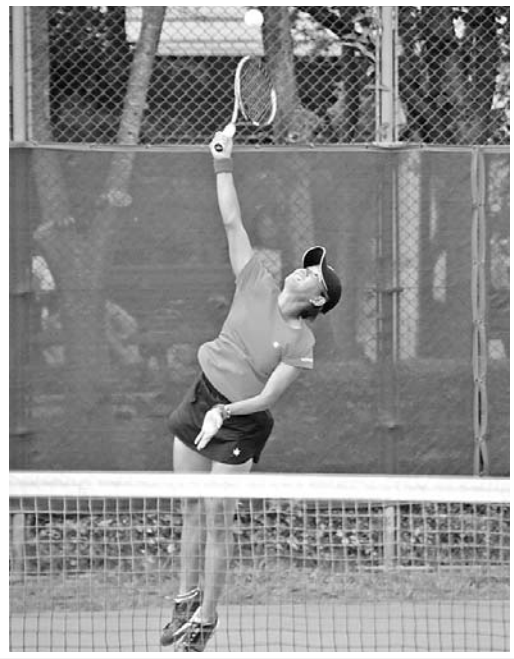
（安藤貴大・商1）

テニス・関東大学リーグ戦

女子2勝3敗で4位

9月1日から10日まで、関東大学テニスリーグ戦が有明テニスの森ほかで行われ、女子が2勝3敗で1部リーグ4位となった。

下川花主将（商4・富士見丘高）は「2年連続で入れ替え戦になったので今年からトレーニングメニューを変えた。『1部残留』『王座進出』という目標を掲げ、リーグ戦に向けて練習した。結果は1部4位と王座には行けなかったが少しは前進したと感じる。来年は大変な戦いになると思うが、王座へ出場してほしい」と話した。



◀チームをけん引した下川主将＝撮影・斉藤葵

男子2部降格

男子は、念願だった1部の舞台に挑んだが、故障者が続出。奮闘するもリーグ戦6位で、入れ替え戦へ。2部1位の日大に敗れ、2部降格となった。

（石田美華・経済2）

相撲・全国学生個人体重別選手権

115kg未満級 横田と平賀ベスト8

▶成長著しい平賀（右）

9月21日に大阪府堺市大浜公園相撲場で全国学生相撲個人体重別選手権が行われ、115kg未満級で横田新樹（商2・鳥取城北高）と平賀慎之介（経営2・専大松戸高）がベスト8の成績を残した。

二人とも「自信を持ってやれた」という初戦は、平賀が上手投げ、横田がはたき込みで勝利。続く準々決勝で平賀は立ち合いを制しきれず敗戦。「まわしを狙いすぎた。3位入賞を狙っていたので、応援していただいた方に申し訳ない」と悔やんだ。

横田も同じく準々決勝で涙をのみ「受け身になってしまった。もっと上を目指したい」と振り返った。

しかし、ともに「勝てるチャンスはあった。あとは気持ちの部分」と話すように、全国で戦えることを証明した。両選手の成長はうれしい悩みで、蒲田勝太コーチも「団体戦のメンバー選考が難しい」と語る。

また今シーズンから1部で戦った東日本学生相撲リーグ戦（9月7日・靖国神社相撲場）は、1勝6敗の7位で終了した。

（村橋志柊・経営2＝写真も）

ヨット・全日本学生選手権

松田、田中ペアが出場

▲積極的なレースを見せた松田・田中ペア

9月21日から23日まで全日本女子学生ヨット選手権が神奈川県葉山町の葉山新港で行われた。7年ぶりとなる全国の舞台に、松田百菜美（経済3・荏田高）・田中智美（商2・西武台高）ペアが出場した。

初日は、硬さが見られたが、レースを重ねるごとに少しずつ順位を上げていく。積極的に前へ出る姿勢を見せるレースもあったが、総合26位で大会を終えた。

松田は「スタートはよかったが、回旋でうまく風に乗れなかった。ヨットはペアの連携が重要。これからも意識していきたい」と話した。

収穫と課題を見いだせた大会となった。

（新井健太郎・文2＝写真も）

アーチェリー・関東学生フロンティアカップ

加藤が4位に入賞

関東学生アーチェリーフロンティアカップが9月6日に埼玉県のはらっぱパーク宮代で行われ、加藤誠務（商3・所沢高）が4位入賞した。

加藤は予選で622点を出し1位通過。決勝トーナメントでも、自分のペースを崩すことなく試合を運び、大学入学後初の入賞を果たした。

「風の強い会場だったので強風に苦しむ選手が多いなか、うまく風を読むことができた」と話し、全日本学生フィールド選手権（10月17～19日、広島県）に向けて「5月の東日本大会ではいい成績を残せなかった。今度は入賞したい」と語った。（鷹野未佳・経営2）

箱根駅伝予選会 10月18日

2年連続出場へ

第91回東京箱根間往復大学駅伝競走の予選会（陸上自衛隊立川駐屯地～国営昭和記念公園、20㎞）が10月18日の9時35分にスタートする。

各校上位10人の合計タイムにより10校が本戦に出場できる。昨年の予選会は総合7位で本選の切符を獲得したが、本戦では総合21位でシード権を獲得することができなかった。今年は昨年の予選会でチームトップのタイムを出した斉藤翔太（商4・一関学院高）をはじめ、本戦を走った経験豊富なメンバーがそろう。2年連続69回目の出場がかかる〝専大健児〟の走りに注目してほしい。

（新井）

アイスホッケー・大学交流戦 苫小牧大会セカンドステージ

見事優勝を飾る

夏期合宿の成果をはかる大学アイスホッケー交流戦苫小牧大会セカンドステージ（9月10～14日、苫小牧市白鳥アイスアリーナほか）が行われ、専大は見事優勝を果たした。

1回戦は4―1、2回戦は6―4と順調に勝ち進み、決勝の相手は苫小牧駒大。第1ピリオドはわずか8本のシュートに抑え込まれリードを許すが、第2、第3ピリオドで福島健一（経済1・北海高）が2得点を挙げるなど、積極的にシュートを打ち、逆転で接戦を制した。戸津寛太主将（法4・長野工業高）は、「連敗続きだった春の交流戦を踏まえ、自分たちが主導権を握ることを目指した。自分たちの試合ができたことが優勝につながった」と語った。

▲井部修久（法4）が敵陣を突破（写真は関東大学リーグ戦・東海大戦）

現役、OB大健闘

アジア大会

韓国で行われた第17回アジア競技大会（2014／仁川＝9月19日～10月4日）で専大の学生、卒業生が日本代表として健闘した。

ゴルフ部の小浦和也（商4・日章学園高）は、通算3アンダーで19位タイとなり、男子団体の5位入賞に貢献。卒業生ではボクシング部OBの川内将嗣さん（平20商＝自衛隊体育学校）が男子ライトウエルター級で銅メダルを獲得した。

47人が参加

森口メモリアル

故・森口忠造総長の遺徳をしのぶ「第42回森口メモリアルゴルフ大会」が9月9日、川崎国際生田緑地ゴルフ場で開催された。大学関係者、卒業生ら47人が参加。小川透さん＝写真㊧＝が2年連続で優勝に輝いた。

記録コーナー

◇ソフトテニス部

▽首都学生秋季リーグ戦（9月2～4日、千葉県・白子町サニーコート）

【男子2部】5勝0敗＝1位※1部復帰

すでに関東大学リーグ戦（Division1-B＝2部リーグに相当）がスタートしており、開幕から2勝1分と、順調にA復帰を目指す。今季のチームはIHFU20チャレンジカップ・オブ・アジア（8月4～7日、ロシア）で日本代表GKとして奮闘した高瀬惇司（法1・北海高）が、戸津主将と二人で守りを固める。11月23日まで、東京・東伏見ダイドードリンコアイスアリーナ他で熱戦が繰り広げられる。

（伊東祐佳・文2＝写真も）